

山形商業高（山形市）産業調査部（通称・産調ガールズ）の生徒たちが25日、破産した百貨店・大沼（同市）の旧山形本店「感謝閉店セール」に合わせて特別発表会を開き、昨年から繰り広げている大沼応援企画の一環で制作した映像を来店客に披露した。

山形商高・産調ガールズ 320年の歴史、来店客に上映



制作した映像「大沼物語」を来店客に披露する山形商高産業調査部の生徒たち
〓 山形市・大沼旧山形本店

大沼物語 新章祈り

産調ガールズの応援企画は昨年春スタート。当時、経営再建中だった大沼の活性化に「役買いたい」と来店客を対象にアンケートを行って課題を探り、対策を

大沼側に提案したほか、集客を図るイベントも開催した。全国高校生徒商業研究発表大会では、こうした活動を盛り込んだ研究内容を発表した。

特別発表会は、大沼の百貨店事業再開を目指している商業コンサルティングの「やまき」（東京）から依頼を受け、部員24人が参加して店内の特設会場で

「笑顔、活気 もう一度」

開催した。発表した映像は、大沼を記録として残したいと制作した「大沼物語」。市内外から親まれてきた百貨店の320年の歴史を説明しながら上映し、「（中心市街地に）活気を取り戻すためにも正式に再開してほしい。買い物客と従業員の笑顔をもう一度見たい」と強調した。

部員たちは来店客に大沼への激励メッセージを書いてもらい、店内に掲示する応援企画も繰り広げた。部長の3年滝口香さん（17）は「大沼は山形になくはならない存在だと感じ、応援したい気持ちが強くなっている」と話していた。特別発表会は8月1日にも開催を予定している。

（手塚秀雄）